

多文化共生社会 今後の在り方は

相互理解に 努めることが必要

稲津 憲護議員 国籍や民族が異なる人々が、互いの文化の違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きる多文化共生社会の形成が、大きな関心を集めている。

本市の地域国際化施策をより一歩進めた形で、多文化共生という視点を盛り込むことは、伝統と文化を育んできた本市にとって、より成熟した市民社会と新たな歴史と文化の一步を踏み出す大きな



▲国際交流サロンでの日本語学習会から

な意義があると思う。そこで、多文化共生社会の在り方について市の認識は、市長 多文化共生社会の形成は、時代の要請であると認識している。市民と在住の外国人が相互に理解を深め、互いに認め合うことで、外国人にとっても住みよいまち、ふるさと府中となるまちづくりに努めることが必要である。今後も国際交流サロン等を活用した、様々な交流事業を通じて共生に努めていく。

包括予算制度 の認識は

事業費の把握方法を改善し 試行範囲を広げていきたい

小山 有彦議員 平成15年第4回定例会以来提案してきた、効率的な予算制度である包括予算制度が、枠配分方式と命名され、17年度予算編成より生活文化部と福祉保健部で試行されたと聞く。本制度により、市民の多様なニーズに、迅速かつ的確に対応できる効率的な行政システムを構築すべきと考え

そこで、市は包括予算制度をどのように認識しているか。 殺傷事件について

「もの」を大切にすることを どう教育しているか

「もの」にもいのちがあると 教育している

池田 茂二議員 各団体等への補助金の財源は、言うまでもなく市民の税金である。現在の限られた財政状況の中で、税金を効率的・効果的に生かしていくためにも、補助金は、より公益性を重視するとともに、市民のため、市の発展につながるよう交付されるべきものと考えている。

そこで、補助金の見直しについて、今後の市の取組を聞きたい。 財務部長 市では、行財政懇

杉村 康之議員 不登校やニートの問題、子供たちをめぐめる様々な事件を耳にするにつけ、心が痛む。子供たちが自信を持てるよう、親子のきずなをもっと深められるよう、そして、子供たちが「もの」を大切にできるように、教育環境を整備してほしいと考える。家庭の教育力が低下してきている事実があるので、これまで以上にしっかりと学校が家庭に踏み込んでいく必要があると思うがどうか。 また、給食の残菜が18%出

補助金 今後の見直しは 補助金検討協議会の報告を基に 検討していきたい

談会の報告に基づき、平成16年度に、市民参加の補助金検討協議会を設置し、種々の提言を受けている。同協議会からは、補助金の見直しの視点や、今後の方向等取り組むべき項目が提言されている。この報告書を基に、既存補助金の評価基準や補助率、公募型補助金の導入方法及び審査体制等を内部で更に検討し、市の方針を定め、補助金の見直しに着手していきたい。

ているようだが、「もの」を大切にすること、食べ物を残さず食べるといふことについて、どのように指導しているか。 学校教育部長 保護者と十分相談した上で、丁寧に家庭訪問をしていくことが重要と考える。また、「もの」にもいのちがあるというように教育をすべての教育活動を通して、食べ物に対する感謝の心を育むことが必要と考える。

区市町村障害者就労支援事業 就労支援等に有効なのでは

就労支援の実績を踏まえ 検討していきたい

前川 浩子議員 市は、平成17年度に、障がい者の就労支援として、ジョブコーチ(職場適応援助者)を派遣



▲地域生活支援センター「み～な」(心身障害者福祉センター内)

とが分かった。これは、区市町村が主体となり障害者就業生活支援センターを設置し、障がいのある人の生活や就労支援をするものである。本市には、地域生活支援センター等があり、これらの有効活用のためにも、同事業は効果的と思うがどうか。 福祉保健部長 効果的な事業と考えているが、本市では本格的に就労支援を開始する初年度であるため、在宅障害者

災害弱者の避難態勢の確立 関係機関と協力しながら 支援態勢を強化していく

山口 雅議員 新潟県中越地震の発生を契機に、各地で災害時の対策について点検や見直しが進んでいる。こうした中、ひとり暮らし高齢者や障害者など、自力で移動することが難しい市民からは、災害時の避難方法について、不安の声が寄せられている。そこで、災害弱者の避難態勢の確立について、市の具体的な取組を聞きたい。 福祉保健部長 ひとり暮らし高齢者については、在宅介護

支援センターを核として、見守りネットワークの力を借りながら、また、ひとり暮らしの障害者については、民生委員やボランティア等の協力を得ながら、支援態勢を強化していきたい。 いずれにしても、消防や警察など防災関係機関と、早い時期に連絡会等を設置する動きがあるので、そのような場で、より具体的な対応策を検討していきたい。 他 市民に信頼される図書館を求め

習熟度別授業 学校教育の視点から 問題はないか

習熟度に応じた授業方法の改善は 重要と考える

等々のニーズや民間事業所の雇用状況等を見極め推進していきたい。 今後、個々の取組の実績等を踏まえ、より効果が見込まれるようであれば、都の補助を受け実施していきたい。 他 障がい児の教育について

目黒 重夫議員 平成16年4月からすべての市立小・中学校で少人数指導がスタートした。この指導の一形態として習熟度別授業があるが、問題点が多く含まれていると思う。同授業は、極めて効率を優先した、いわば塾のようなものではないかと考える。果たして、学校教育という視点から見た場合、本当にこれでいいのかと疑問を持つ。そこで、習熟度別授業について、市の考えを聞きたい。 教育長 一人ひとりの児童・生徒の習熟の程度は様々である。一定の基礎学力の定着を望む子どもたち、更には学力を伸ばしたいと思っっている子どもたちもいる。そこで、一人ひとりの習熟度、いわゆる到達度に応じて指導方法を改善することは重要であり、ある意味では効率の良い指導方法とも言える。 このことは、学校に求められる授業改善と考えている。